

平成 30 年度

学校評価報告書

- 自己点検
- 学校関係者評価報告書

平成 31 年 3 月

公益財団法人 看護教育財団
茨城県結城看護専門学校

1 学校評価 自己点検

当校の自己点検は、平成 25 年 3 月に文部科学省生涯学習政策局から「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に評価項目を設定し、平成 29 年度から開始した。

平成 29 年度の自己点検は、各項目の実施状況を「できている」「一部できている」「できていない」の 3 つの視点から評価した。

平成 30 年度は、前年度の自己点検で明確になった課題を改善し、各項目の実施状況を「適切」「ほぼ適切」「やや不適切」「不適切」の 4 つの視点から質的に評価できる基準に変更した。

また、自己点検に加え、評価プロセスの客観性・透明性を高め、学校運営の改善を図ることを目的に、学校関係の方々から評価を受ける「学校関係者評価」を開始した。

1) 組織体制

学校評価の実務担当として、学校評価委員会を設置している。また、学校評価に関する実施要綱を定めている。

2) 重点目標に関連する評価項目

評価基準 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

	課題	重点目標	評価項目	評価
1	新入生の定員及び総定員の確保	1) 本校の特色ある教育活動及び教育活動全般をホームページ等に効果的に発信する。	2-5 学生募集の広報	4
		2) オープンキャンパス及び高校訪問等を活用し、本校のPR活動を促進する。	2-8 学生定員の量・質的充足	4
		3) 学生が学業継続できるよう教職員とカウンセラーが連携し、学習・心理面から支援する。	3-12 学生相談の整備	4
2	看護師国家試験の全員合格の維持	1) 各学年の教育進度に応じた国家試験対策を計画的に実施する。 2) 模擬試験及び学習状況を分析し、弱点克服に向けた個別指導を強化する。 3) 教職員間で協力し、学習課題の改善に向けた効果的な学習環境を整える。	4-33 資格取得率の向上	4
3	高い学力の育成と探究的な学習の確立	1) アクティブ・ラーニング型の授業等を活用し、わかりやすい授業を展開する。	4-23 教育方法の工夫・研究	4
		2) 学生の習熟度に応じた思考力・判断力・表現力の育成を重視した学習指導を展開する。	4-25 授業評価	4
		3) 教職員間及び学生と教職員が円滑なコミュニケーションを図り、学生の自主的・主体的な学習を支援する。	4-34 看護実践能力の向上	4
			3-15 保護者との連携	4
4	県内就業の維持・向上	1) 学生のキャリア形成に繋がる就職説明会を行う。	3-11 進路・就職の支援体制	4
		2) 就職・進学に関して相談しやすい環境を整える。	4-35 就職率の向上	4
5	組織の効率化及び効果的な運営の推進	1) 学校関係者評価に向けた体制整備を推進する。	4-22 授業時間の担当・時間	3
		2) クラス運営及び学習指導チームによる連携を強化し、効率的な運営を図る。	4-24 教育方法の工夫・研究	3
		3) 経営意識をもち、歳出削減及びエコ活動に取り組む。	6-46 経営意識	3
		4) 時間管理を徹底し、効率的・効果的な業務を遂行する。	6-47 組織の整備	4
			6-55 教職員の協働意欲	3
			8-62 自己評価の実施、結果の公表	4

3) 評価項目

(1) 大・中項目, 小項目数

	大項目	中項目	小項目数
1	教育理念・目標	1) 教育理念, 目的, 目標の評価	3
		2) 将来構想の明確化	1
2	学生受け入れ	1) 学生募集の方法	3
		2) 入学選抜の方法	1
		3) 学生定員の量・質の充足	1
		4) 学生募集・学生受け入れに関する評価	1
3	学生支援	1) 学業継続の支援	6
		2) 社会人の支援	1
4	教育活動	1) 教育課程の編成	3
		2) 教授・学習評価過程	6
		3) 単位管理	2
		4) 指導者の確保・育成	5
		5) 学修成果	4
5	教育環境	1) 教育環境の整備	4
		2) 実習施設の整備	2
		3) 安全対策	1
6	学校管理・運営	1) 学校経営	3
		2) 組織管理	7
		3) 教職員の育成	2
		4) 卒業生の支援	1
7	財務	1) 財務・収支	3
8	法令の整備	1) 法令・規程の整備	4
9	社会貢献	1) 社会・地域貢献	4

4) 自己点検・評価の実施期間 平成 30 年 4 月から平成 31 年 1 月までの期間

5) 評価基準 4 : 適切 3 : ほぼ適切 2 : やや不適切 1 : 不適切

6) 評価結果の検証・分析

(1) 教育理念・目標 【自己点検評価 : 4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育理念・目的・目標の評価	4	1) 教育理念, 目的, 目標, 育人材像, 職業教育の特色の設定	4	「育人材像」と「求める入学生像」は明記していなかったため, 教職員の意見を取り入れ, 明文化し, 共有している。
		2) 教育理念・目標・育人材像の達成状況の点検・評価	4	前年度の課題に対して改善策を講じ, 適宜実践し, 教育目標等に対する達成状況を点検・評価している。
将来構想の明確化	4	3) 学校の将来構想の明確化	4	年度当初に運営方針や重点目標を教職員に周知し, その取り組みに対し中期・年度末に点検し, 今後の運営改善に繋いでいる。

○課題

教育目標・重点目標を達成できるよう組織全体で取り組み, 運営上の課題改善に繋げる。

○今後の改善方策

教育目標・重点目標等を年度当初・中期・年度末に組織運営及び教育活動状況を点検・評価し, 改善に向けた P D C A サイクルを展開する。

●学校関係者評価

項目	評価	ご意見
教育理念 ・目標	④ 3 2 1 (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	学校運営方針や重点目標が、組織内で共有され、改善点に向けた、PDCAサイクルが展開されていると評価できる。

(2) 学生受入れ 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学生募集の方法	4	1 学習募集の方法	4	募集要項に「求める入学生像」を明記し、試験の種類・方法を示している。
		2 学生募集の広報	4	パンフレット等を毎年見直し、高校生・社会人向けの情報を提供している。
		3 学生募集の活動	4	高校訪問や進路ガイダンス、模擬授業等に積極的に参加している（トータル年120回程度）。
入学選抜の方法	4	1 入学選抜の試験方法	4	入学試験委員会規定に基づき、入学選抜基準や試験方法を明記し、厳正に取り扱っている。
学生の充足	4	1 学生定員の量・質的充足状況	4	総定員は120名、現員120名である。総定員の95%（114名）を維持する目標は達成している。学生の休・退学への対策として、学生の変化をキャッチし早期に対応している。必要時は学生相談に向け、連携体制を強化している。
評価	4	1 学生募集・学生受入れに関する評価	4	受験者・入学者等の推移を評価し、学生募集や入学試験の方法を見直し、入学試験委員会や運営会議に提案し、改善に努めている。

○課題 学生募集及び学生支援プロセスを評価し、学生定員の充足を図る。

○今後の改善方策

- 1 学生募集状況及び試験結果から、募集活動や入学選抜方法を見直し、改善を図る。
- 2 学生の生活・学習状況の変化をキャッチし、早期から保護者・カウンセラーと連携し、学業継続できるよう支援する。

●学校関係者評価

項目	評価	ご意見
学生受入れ	④ 3 2 1 (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	学生募集活動が適切に行われているため、総定員を満たす学生が確保されていると評価できる。

(3) 学生支援 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学業継続の支援	4	1 健康管理	4	健診後のフォロー健診や保健指導を行い、健康な学校生活を送れるよう支援している。
		2 進路・就職の支援	4	就職・進路情報コーナーを整備し、学生からの相談はタイムリーに対応している。
		3 学生相談の整備	4	学生相談日は時間割に明記し、計画しやすいよう工夫している。担任は学生と適宜面談し、カウンセラーや保護者と連携しながら支援体制を強化している。
		4 課外活動の支援	4	同好会の活動を支援している。
		5 自治会への支援	4	自治会の活動を支援している。
		6 保護者との連携	4	保護者との連絡を通して、連携を図っている。
社会人の支援	4	1 社会人入学者の認定制度・経済支援	4	大学等の既修得単位の認定や教育訓練給付金制度を活用し、学費軽減に努めている。

○課題 学生が心身ともに健康な状態で、学業を継続できるよう支援体制を強化する。

○今後の改善方策

学生の心身の変化をキャッチし、保護者やカウンセラー、事務担当者と連携しながら、学業が継続できるよう支援する。

●学校関係者評価

項目	評価	ご意見
学生支援	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 4 3 2 1 </div> (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	カウンセラーの配置など、学生相談体制・支援体制ができていると評価できる。

(4)教育活動 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
教育課程の編成	4	1 教育課程の立案	4	教育理念、目的、目標、科目及びその内容について、明文化している。
		2 教育課程の効果的編成	4	科目は学習進度に合わせ、順序立てて編成している。
		3 教育課程の点検・見直し	4	教育課程の見直しは毎年実施している。
教授・学習の評価過程	4	1 学習支援ガイダンス	4	年度初めや実習前にガイダンスを定期的に行っている。
		2 授業の計画的遂行・調整	4	時間割の進度は授業計画通りに行っている。授業科目担当者や実習指導者には事前に授業内容を説明している。
		3 授業科目の担当・時間	3	教員一人あたりの授業時間を週 15 時間以内とし、授業の準備時間を確保するよう学校運営ガイドラインに示されている。講義は規定時間内である。実習は規定時間を超えているが、学生の記録指導は教員側、技術指導は施設側と役割を分担し、指導を強化している。
		4 対象者への実習協力依頼	4	実習協力に関する対象者への説明は病院側が担っている。
		5 教育方法の工夫・研究	3	研究までに至っていないが、学生の主体性を育む授業構成を工夫している。
		6 授業評価	4	授業評価は内部・外部教員を対象に実施している。
単位の管理	4	1 単位互換	4	単位認定できる科目内容を明記している。
		2 成績評価、単位認定進級・卒業判定	4	単位認定会議規程に基づき、実施している。
指導者の確保・育成	4	1 人材確保、組織編成	4	新人教員の割合が高いため、新人は実習指導を中心に、中堅はクラス運営を中心にチームを編成し、効率・効果的運営に努めている。
		2 教員の能力開発・向上	3	研修会・学会参加は積極的に参加し、教育力の向上に努めている。校内のOJTプログラムは内容を検討している。
		3 学級運営	4	学生の個性や自主性を認め、クラスの凝集性が高まるよう支援している。

		4	危機管理・教育	4	防災・消防訓練，個人情報等の危機管理教育を毎年行っている。
		5	地域の教育ニーズへの協力	4	教員による出前講座や小・中学生向けの命の授業・性教育を行っている。
学修成果	4	1	資格取得率の向上	4	国家試験対策は1年次から年間計画に基づき，段階的に進めている。
		2	看護実践能力の向上	4	学生の看護技術力向上を目指し，放課後に演習時間を設け，教員が指導に当たっている。
		3	就職率の向上	4	県内就業・進学，県西地域への就業者は昨年度よりやや多く，卒業生全員が県内に就職・進学している。進学先は県内助産学科である。
		4	卒業生のキャリア支援	3	卒業者が来校することは多く，仕事のことやキャリアアップに関すること等，教員に相談している姿をよくみかける。

参考：看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン

「教員の週授業時間数 15 時間以内及び実習指導 3 時間に対して 1 時間の準備時間を確保する」と規定されている。

○課題

- 1 「看護学校養成所の運営に関する指導ガイドライン」に準拠し，教員の学生指導への準備時間を確保し，教育力を向上させる。
- 2 校内 OJT の実施及びキャリア支援に繋がる教員の育成に努める。

○今後の改善方策

- 1 実習指導時間に関する規定を準拠するために，実習施設に教頭及び教務主任より主旨を説明し，指導体制を強化して頂けるよう協力を依頼する。
- 2 校内での OJT を通して，新人・中堅教員を育成し，教育プログラムの充実に図る。

●学校関係者評価

項目	評価	ご意見
教育活動	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 4 3 2 1 </div> (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	国家試験合格率が平成 29 年度は新卒 100% で，平成 30 年度県内就業内定率が 100% であるなど，適切な教育活動ができていると評価できる。

(5) 教育環境 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠	
教育環境の整備	4	1	校舎の整備	4	必要な教材は計画的に予算化している。
		2	福利厚生	4	学生が自習できる図書室やゼミ室を整備している。学生保険に加入し活用している。
		3	図書室の整備・管理	4	図書は計画的に予算化し，整備している。
		4	教材の整備・管理	4	教材点検を定期的に行っている。
実習施設の整備	4	1	実習施設の整備	4	実習に必要な討議室・図書・看護用具を整備している。
		2	実習指導体制	4	実習指導者は 1 病棟に 2 名以上配置するよう規定されているため，計画的に育成している。
安全対策	4	1	防災・安全教育	4	学校・地域の防災教育に参加している。

○課題

- 1 校内図書室の図書及び視聴覚教材を充実させる。
- 2 実習施設の図書・看護用具を整え，効果的な教育環境を整える。

○今後の改善方策

- 1 最新の情報を提供できるよう教材及び新刊図書を予算化し整備する。
- 2 実習施設の学習環境を点検し、必要時に予算化し整備する。

●学校関係者評価

項目	評価基準	ご意見等をお願いします
教育環境	④ 3 2 1 (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	自習できる図書室など学習に必要な教育環境が整備されていると評価できる。

(6) 学校管理・運営 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
学校経営	3	1 運営方針の策定	4	運営方針策定し、その内容を教職員全員が共有している。
		2 事業計画の策定	3	運営方針を基に事業計画を作成し、それに伴う予算措置を講じている。事業計画の執行状況を報告し、教職員に周知している。
		3 経営意識	3	教職員は事業の効率・効果性を追求しながら業務を遂行している。
組織管理	4	1 組織の整備	4	組織図は教職員の配置及び命令系統に沿った役割が明確になっている。
		2 教員・講師の要件	4	教員・非常勤講師の資格要件を満たしている。
		3 危機管理	4	防災・消防訓練、情報管理の安全教育を毎年実施している。
		4 学籍の管理	4	電子媒体及び紙面上で一括管理している。
		5 教職員の職務分掌	4	職務分掌に則り、その役割を遂行している。
		6 会議運営	4	会議規定に則り、適切に運営している。
		7 データ管理	4	データを資料にまとめ、事業の基本資料として活用している。
教職員の育成	3	1 目標管理制度, 研修・研究活動	3	管理者は年度初め・中間・年度末に個人面談を行い、目標管理に関する助言・指導を行っている。また必要時はキャリア支援や研究活動を助言している。
		2 教職員の協働意欲	3	実習指導・クラス運営チームはチーム内の課題を共有し改善に取り組んでいる。チーム間の連携は教員会議を活用している。
卒業生への支援	4	1 卒業生への支援	4	卒業生は現況報告や、再就業先の相談等の相談を求めて来校することが多い。教員は時間を空け、卒業生の話をじっくり聞いている。

○課題

- 1 教職員は業務の効率・効果性を追求した経営意識を高める。
- 2 教職員の目標達成及びキャリアアップに繋がる教育体制を強化する。

○今後の改善方策

- 1 業務報告会の結果、明確になった課題を教職員で共有し、改善に向けて組織全体で取り組む。
- 2 定期面談やOJTを通し、人材を育成するとともにキャリア支援を行う。

●学校関係者評価

大項目	評価	ご意見
学校管理・運営	④ 3 2 1 (適切) (ほぼ適切) (やや不適切) (不適切)	事業計画等が教職員間で共有されるなど、組織全体で運営されていると評価できる。

(7) 財務 【自己点検評価：3】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
財務・収支	3	1 中長期的な財務基盤の安定	4	学生定員の充足率の推移を把握し、中期的な財政安定を見通している。
		2 予算の適切な執行状況	3	予算の執行に関して、チェック体制が整備され、適切に会計処理されている。
		3 会計監査、財務情報の公開	3	会計監査の結果報告や財務情報に関して公開している。

○課題

財務状況や予算の執行状況を教職員が理解し、財政安定に関する認識を高める。

○今後の改善方策

財務状況や予算の執行状況について、事業報告会を通して、事務長から教職員に説明を受け、共有を図る。

●学校関係者評価

項目	評価				ご意見
財務	4 (適切)	3 (ほぼ適切)	2 (やや不適切)	1 (不適切)	財務状況が赤字となっており、授業料等の値上げの検討などが必要である。

(8) 法令の整備 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
法令・規程の整備・運営	4	1 法令、専修学校設置基準等の整備、適正な運営	3	学校運営に必要な諸規定を整備している。申請・届出は遅滞なく提出している。
		2 個人情報に関する規程の整備	4	規程は点検・整備している。
		3 自己評価の実施、結果の実施	4	自己評価を実施し公表している。
		4 教育情報の情報提供	4	学校情報はデータ化し公表している。

○課題 諸規定・マニュアルの精度を高める。

○今後の改善方策 諸規定・マニュアルを毎年点検し、内容を充実させる。また必要時は規定を追加する。

●学校関係者評価

項目	評価				ご意見
法令の整備	4 (適切)	3 (ほぼ適切)	2 (やや不適切)	1 (不適切)	学校運営に必要な諸規定が整備されていると評価できる。

(9) 社会貢献 【自己点検評価：4】

中項目	評価	小項目	評価	根拠
社会貢献 地域貢献	4	1 学校の教育資源・施設の活用	4	地域の公開講座や小中学校の講師として活動している。
		2 ボランティア活動	4	学生ボランティアは積極的に活動している。
		3 地域交流の奨励・支援	4	学生は地域の行事等に積極的に参加している。
		4 職業意識の涵養	4	高校生に向けた職業教育に参加し、職業意識の涵養に努めている。

○課題 地域・施設のニーズに応じて、看護学校の教育資源を活用する。

○今後の改善方策 地域の施設と連携し、看護学校の教育資源を提供する。

●学校関係者評価

項目	評価				ご意見
社会貢献	4 (適切)	3 (ほぼ適切)	2 (やや不適切)	1 (不適切)	学生ボランティアなどが地域活動に貢献していると評価できる。

2 外部アンケートの実施及び評価

1) 実習指導者対象の公開授業

○ねらい:実習指導者から実践的な意見や評価を受けることにより授業改善を図るとともに、教員の看護実践能力及び教育実践能力の向上を目指す。

○授業内容：看護技術演習 10項目

○授業計画：6月4日～11月22日

月日	時間	内容	予定者	実績数
6月4日	15:10～16:40	足浴	10名	—
6月14日	13:30～15:00	洗髪	10名	—
6月18日	10:40～12:10	食事介助	10名	—
7月17日	9:00～11:25	バイタルサイン	10名	1名
7月23日	9:00～11:25	全身清拭・寝衣交換	10名	1名
8月30日	10:40～12:10	経管栄養	10名	1名
9月13日	13:30～15:00	おむつ交換, 便器・尿器介助	10名	1名
10月3日	13:30～15:00	浣腸	10名	1名
10月19日	13:30～15:00	導尿	10名	1名
11月22日	9:00～12:10	フィジカルアセスメント	10名	2名

対象施設：12施設

	施設	施設数	対象者
病院	城西病院, 結城病院, 友愛記念病院, 古河赤十字病院, 茨城西南医療センター病院, 下館病院	6病院	実習指導者等
老健・老福施設	介護老健保健施設生いきき倶楽部 特別養護老人ホームしらとり	2施設	
訪問看護ステーション	愛美園・春風・わくわく	3施設	
他	結城市健康増進センター	1施設	

○参加理由

- ・看護基礎教育で行われている学習（演習）に興味があった。6名（75%）
- ・今後の学生指導に活用したい。6名（75%）

○授業評価

- ・項目「演習の時間配分は適切であるか」について、概ね適切であったが、学生の演習時間が短く、もう少し時間的余裕があった方が良いという意見が多かった。特に「おむつ交換」の演習時間の時間配分に関してご意見を頂いた。「バイタルサイン」と「フィジカルアセスメント」の演習では、看護技術の根拠の導き方や支援方法を見学し、学校での指導方法を確認できたとともに、実習指導に活用したいとの意見を頂いた。

○公開授業への要望

- ・全員がよい企画であると回答していた。
- ・その根拠として、看護基礎教育の現状を把握することで病院でも一貫した実習指導に活用できること、また卒業後の新人教育に活用したいと積極的なご意見も頂いた。
- ・今後の要望として、公開授業への要望として、「注射」「看護倫理」「心電図」「小児の沐浴」が挙げられた。臨床での新人教育に活用したい

2) 1年生の保護者対象の授業参観

○ねらい

看護基礎教育における授業を保護者に公開することで、看護の学習への理解を深め、家庭と学校の連携した学習支援の協力を得る機会とする。

○授業内容

科目は「看護学概論」、テーマは「看護と社会」、内容は「看護職の資格と活動（認定・専門看護師の活動を含む）」、「これからの看護教育」

○授業参観日：11月26日 10:40～12:10（90分間）

○参加者：41名に郵送し、7名が参加した。

○参加理由

- ・どんな学習をしているか知りたいと思った。6名（85%）
- ・授業風景やわが子の学習態度を見たかった。6名（85%）

○授業評価

- ・授業内容が「わかりやすかった」という意見が多かった。
- ・授業参観はよい企画であり、今後も時間が合えば参加したいと好印象であった。
また授業に参加して、看護師の仕事は楽ではないことや子どもに対して支援したい気持ちを強めたようであった。

4 評価結果の公表 ※別添資料参照

5 まとめ

今年度の学校の評運営状況は全体的に「ほぼ適切」から「適切」であった。

昨年度の課題であった「規定の整備」については、会議規定及び委員会活動に係る規定を整備した結果、今年度評価では改善がみられた。

今後はOJT教育プログラムを見直し、教員の育成を強化していく。

資料：茨城県結城看護専門学校評価委員会規程
学校評価に関する実施要綱